

1. このジョイント・ディグリー・プログラムの最大の特徴は何ですか？

A:

最も大きな特色は、日英双方のフィールドにおける実践的な学びです。環境課題の現場でプロジェクトに参加しながら、学術的知識と課題解決能力を同時に育成します。また、日本の国立大学として初めて学部レベルで二国間の単一学位を発行するという点でも大きな意義があります。

2. どのような学生を対象としていますか？

A:

国際舞台で環境分野に貢献したい学生、異文化環境での学びを楽しめる学生、現場での実践に積極的に取り組める学生を歓迎します。日本人については入学時から相当の英語力のある学生を想定しています。すべての授業は英語で行われる予定です。

3. 学費や滞在費はどのようになりますか？

A:

学生は全員、1年次は入学した大学、2年次はグラスゴー大学、3年次は九州大学、4年次は学生自身の研究テーマに合わせて、学生が選択したどちらかの大学で学びますが、授業料については、現時点の検討案では学修場所に関わらず、九州大学に入学した学生は九州大学の授業料を、グラスゴー大学に入学した学生はグラスゴー大学の授業料を支払う予定です。滞在費等については、学生の負担が過度にならないよう配慮し、寮に滞在してもらうなど、支援策を検討しています。

4. なぜグラスゴー大学と組むのですか？

A:

グラスゴー大学「社会・環境サステナビリティ学部」(SES)は、文系と理系を融合しながら、環境課題をターゲットにしている点が、九州大学「共創学部」(ISI)の文理を越えた共創的課題解決力を養うという方向性と一致しています。ヨーロッパの大学の中では、極めて稀有な組織編成です。また、これまでCOIL(オンライン協働学習)や短期プログラムを通じた協働での教育実績も豊富で、長年の信頼関係を基盤に、次のステップとしてJDP実施を目指すこととなりました。

このJDPでは、SESとISIの文理を越えた幅広い学習に加え、SESが現在行っているフィールド調査研究とISIが現在行っている課題解決に向けた協働学習を強固に結びつけることで、国を越えた環境に関する政策を提言できる人材を養成したいと考えています。

5. 就職に有利になりますか？

A:

日英両国での学位取得経験は、国際機関、企業、NPOなど幅広い分野で高く評価されると考えています。

フィールドでの実践経験は、就職活動においても大きな強みになります。

6. プログラム修了後の進路は？

A：

国際機関、国際環境 NGO、政府機関、企業の ESG 領域、大学院進学など、多様なキャリアが想定されます。なお、国際的な機関等への就職を希望する場合、多くの場合、大学院進学が必要となります。

7. 学生の安全面はどう確保しますか？

A：

両大学が協働し、安全管理体制や緊急時対応サポートを包括的に整える予定です。留学生支援の経験が豊富な両校が、学生生活を全面的にサポートします。また、学業や生活にかかる相談に対応するために、両校のアドバイザーを配置する予定です。

8. ジョイント・ディグリー・プログラムはダブル・ディグリー・プログラムとどう違うのですか？

A：

ダブル・ディグリー・プログラムは、学生が2つの大学でそれぞれの卒業条件を満たすことで「2つの学位を取得できる」制度です。一方、ジョイント・ディグリー・プログラムでは、2つ以上の大学が協力して「1つの共同の教育プログラム」を作り、その成果として、「両大学名が入った1つの特別な学位」を授与する制度です。この学位を作るには、大学同士が授業内容、単位の考え方等を決める必要があります。このため、高い専門性と多くの調整が求められ、日本国内でも実施大学はまだ限られています。